

- 徳島県上勝町の主力産業である彩は、全国屈指の料理の妻物ブランドであるが、**篤農家技術の次代継承**と、**生産者間での技術力格差是正が課題**。
- このため徳島農業支援センター(以下、支援センター)では、技術力の高い農家をモデルに、**映像と画像を駆使した新規就農者向けの栽培マニュアルを作成し、講習会等による技術支援**を実施した。
- 新規就農者が少しずつ増えている今、**彩農家育成プログラムを構築し、後継者の人材育成、産地収益力の向上**を目指す。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 彩栽培マニュアルの完成(H28)

■地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型交付金)事業を活用し、主要10品目のマニュアルを作成。

特徴

①新規就農者向け

基本技術を中心に掲載

②映像、画像、イラスト多用

視覚に訴え、分かりやすい内容
圃場でも作業場でもタブレットにて映像で確認しながら作業できる

③技術の外部流出を防止

冊子は番号化し、部会員のみ配布、
データは部会員以外閲覧できない情報システム中に組込む

2 彩部会員の技術力向上(H26～)

■他にない彩の栽培技術は、生産者の経験に頼っていたが、**モデル農家の技術**をまとめることにより、**ノウハウの共有と技術力の底上げ**、ひいては**品質の向上、安定化**に繋がる。

3 彩産業を支える関係機関の連携強化

■上勝町農業戦略会議の活性化
彩栽培マニュアル**監修機関**として既存の農業戦略会議を活用したことで、役場(産業課、企画環境課)、農協、支援センター、(株)いんどり、地域おこし協力隊など**幅広い関係者**が出席し、**議論する場**となった。

平成26年

■ナンテン栽培マニュアルを**作成**。

平成27年

■青もみじ栽培マニュアルを**作成**。

平成28年

■**チームを結成**し、10品目の彩栽培マニュアルを作成し、全農家に配布。
上勝町…**方針の決定**
(株)いんどり…**品目選定、農家選定**
地域おこし協力隊…**農家研修**
農協…出荷規格、荷造りの**指導**
支援センター…**ヒアリング、執筆**
映像会社…**映像、画像の撮影編集**
上勝町農業戦略会議…**監修**



普及指導員だからできたこと

・専門知識を持ち、関係機関と連携を図れる立場だからこそ、**チーム結成を提案し、各ノウハウを結集した分かりやすい栽培マニュアルを作成できた**。

・マニュアル作成を機会に、日頃から連携している篤農家、農協、研究機関、町行政、民間企業等の**関係者を結びつけ、彩産業の発展に向けた今後の取組みに繋げる体制が構築できた**。

彩栽培マニュアルの作成

活動期間：平成26～28年度

1. 取組の背景

徳島県上勝町の主力産業である彩は、全国で屈指の料理の妻物ブランドであるが、篤農家技術の次代への継承と、生産者間での技術力格差の是正が課題となっている。

2. 活動内容（詳細）

徳島農業支援センターが中心となり、平成26年度にはナンテン、平成27年度には青モミジの栽培マニュアルを作成した。平成28年度には、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型交付金）事業を活用し、主要10品目の栽培マニュアルを作成し、講習会等による技術支援を実施した。

ア 関係機関の連携体制の強化

既存の上勝町農業戦略会議を彩栽培マニュアル監修機関として位置づけることで、上勝町、JA東とくしま、徳島農業支援センター、(株)いろどり、地域おこし協力隊等の彩産業に係わる幅広い関係者を加え、それぞれの視点から共通の目標に向けた議論ができる場とした。

イ 主要10品目の選定

JA東とくしま及び(株)いろどりが、現在、販売額の高い品目及び今後需要の拡大が見込まれる品目の中から、10品目を選定した。また、生産者の栽培技術が彩の生産量や品質に大きく影響することから、品目ごとに出荷量が多く品質の高い農家を聞き取りの対象（モデル農家）とした。

ウ モデル農家への聞き取り

10品目それぞれについて栽培ステージ毎の聞き取りや撮影を行う必要があることから、まずは、地域おこし協力隊がモデル農家に研修に入り、栽培ステージを把握することとした。次に、地域おこし協力隊の情報を元に関係機関が協議し、聞き取りや撮影に係るスケジューリングを行った。徳島農業支援センターは、10品目それぞれの栽培ステージにおいて、モデル農家に対し栽培技術の詳細な聞き取りを行い、その内容を取りまとめた。

エ 技術の目に見える化

新規就農者にも分かりやすいマニュアルとするため、映像と画像とイラストを多く掲載することとした。映像、画像については民間の映像会社が担い、モデル農家への聞き取りに同行して撮影をおこなった。

オ マニュアルの作成

作成した説明文や撮影した映像・画像等は、マニュアル掲載に向け、毎月関係機関が協議を重ねていった。さらに、未経験者にも分かりやすいマニュアルとするため、(株)いろどり及び地域おこし協力隊の意

見も内容や構成に取り入れた。

3. 具体的な成果（詳細）

主要10品目のマニュアルが完成した。これまで生産者の経験に委ねられてきた彩技術が、マニュアルとして文章と映像で記録された。技術は部会員共有の財産とするとともに、部会としての知的財産権を守るため、冊子は番号化し、部会員のみに配布した。

データは部会員以外閲覧できない情報システム中に組み込み、圃場でも作業場でも場所を選ばず、知りたいと思った時にタイムリーにタブレットで確認できるようにした。

これらにより、新規就農者が技術を習得できるようになるとともに、部会全体の技術の底上げが図られた。

また、今回のマニュアルの作成は多くの関係機関がチームで取り組んだため、農家ヒアリングで産地の様々な課題に触れ、それを共有することができた。この体制は、今後様々な産地の課題に対し、多角的に連携して取り組めることが期待できる。

4. 農家等からの評価・コメント（上勝町A氏）

これまで、彩は農家間での競争で発展してきた産地である。しかし、高齢化が進む中、これからは、各農家が持っている素晴らしい技術を部会で共有し、共に協力しあって産地を守っていく必要がある。マニュアルの作成と農家による技術の提供は、その大きな第一歩になったと思う。

5. 普及指導員のコメント（徳島農業支援センター主任 鈴江有里）

マニュアル作成という目標を通じて、関係機関と協力して活動でき、今後の産地の課題解決に向けてのよい関係性が築かれたと感じている。関係機関でチームを結成し、それぞれの得意分野を発揮できるようコーディネートすることも普及指導員が担える役割だと実感した。

6. 現状・今後の展開等

今年度からはこの彩栽培マニュアルを活用した、新規就農者向けの勉強会を開催していきたいと考えている。

彩栽培マニュアル配布することにより、生産量が多く品質の高い生産技術を知ることができ、彩部会の品質の底上げにも活用できる。

また、今後も引き続き、マニュアルの品目を増やして、320品目の彩生産を後世に引き継いでいく必要がある。そのためには、生産者、JA東とくしま、(株)いろどり、上勝町等の関係機関との連携は必須であり、マニュアル作成をきっかけに、更なる連携強化を目指す。

